

## 20018WCスペイン大会 (SGM) 戦評記録

### ○ 予選リーグ出場国

Aプール ・ドイツ ・オーストラリア ・スコットランド ・アルゼンチン  
・イタリア ・南アフリカ  
Bプール ・オランダ ・イギリス ・日本 ・ベルギー ・ウェールズ

### 予選リーグ

【第1試合】6月21日 (SGM) 対 ベルギー 19:45 晴 ピッチ2

今大会の目標である『ベスト8以内』を果たす為には絶対この初戦に勝たねばならない試合であった。

夕方遅い時間からの試合であり暑さはあまり感じない最高のコンディションでWC初戦の試合がスタートした。開始早々から日本ペースで進み、幾度となく相手陣内に攻め込むが決定力を欠きなかなか得点に結びつかない。1Qは無得点のまま終了。2Qに入っても日本ペースで試合は進む。22分、23ヤード付近からサイクル内に縦パスを送り森阪のタッチシュートが決まったかに思われたがノーゴールと判定される。しかし、26分右からサークル内にドリブルで持ち込みシュート、リバウンドを森坂が押し込み今大会待望の先制点を上げる。前半1-0とリードして終了。後半に入っても日本の攻撃は続くが得点には至らない。51分ようやく宮本がPCからサークルトップでパスを受け、ドリブルで右からサークル内に持ち込みクリーンシュートようやく追加点を上げる。3Qを2-0で終了。4Qに入ると飛ばしすぎて、日本の足が止まり、ベルギーに再三攻め込まれる展開となる。60分PCからDFの足に当たりPSとなり1点を返される。さらに64分、サークル内に縦パスを通されシュート2点目を取られ2-2となる。流れはベルギーペースとなり日本は防戦一方となる。69分ドリブルでサークル内に持ち込まれシュートしたボールをGK前でタッチシュートされ逆転を許す。そのまま2-3でゲーム終了。

初戦勝てるゲームを落としてしまった。敗因は体力不足 (ペース配分)。戦術の失敗である。悔いの残るゲームであった。しかしながらこの敗戦の教訓は過去最高成績を収める原動力となった。

(敗北を知っているから、勝利は素敵なものなのだ：マルコム・フォーブス)

|    |   |  |   |      |
|----|---|--|---|------|
| 日本 | 2 | $\left[ \begin{array}{c} 0-0 \\ 1-0 \\ 1-0 \\ 0-3 \end{array} \right]$ | 3 | ベルギー |
|----|---|--|---|------|

【第2試合】6月23日 (SGM) 対 イングランド 9:30 晴 ピッチ3

前回優勝チームイングランドとの対戦。格上のチームで「実質的な試合時間を少なくしよう」と作戦を立てて、試合に臨んだが、試合開始よりイングランドのパス、ドリブルに日本チームはなかなか対応できず一方的なゲームである。7分サークルトップよりクリーンシュートを決められ1点を先制される。なおも厳しい攻撃は続くが日本も必死で守り1Qは0-1で終了する。2Qに入っても日本は引きぎみに試合するためなかなか攻撃に結びつかず2Q4点を取られ前半5-0で終了。後半に入りFW3人をトップに残しカウンターを狙う作戦を取り徐々に日本も反撃できるようになる。その結果3Qは失点1と最小限にとどめられた。4Qに入ると日本も相手サークル内に入り込める

攻撃が出来るようになり60分周々木のタッチシュートで待望の1点を取ることが出来た。しかし1点を追加され7-1で試合終了。技術、戦略、体力共にイングランドの強さを見せつけられた試合となったが1得点は金星である。これほどまでに得点されたのは、試合開始前親指を骨折した筒井の負傷は痛かった。(7点ともすべてFG)

日本 1  $\begin{bmatrix} 0-1 \\ 0-4 \\ 0-1 \\ 1-1 \end{bmatrix}$  7 イングランド

【第3試合】6月25日(SGM) 対 オランダ 14:15 晴れ ピッチ1  
 イングランドに続く格上のチーム「実質的な試合時間を少なくしようと」作戦を立てて、試合に臨んだが、開始早々からオランダのパス、ドリブル、走力になかなか対応できない。オランダの多彩な攻撃に1Q2点、2Q2点を与え0-4で前半を終了。後半に入ってもオランダのペースは変わらずパス回しについて行けない。しかし日本も関谷、松本、妹背を中心に何とか攻撃を試みるがパスが繋がらない。3Qを何とか0に抑えるが、4Qに入り1点を加点され試合終了。0-5で敗戦。

日本 0  $\begin{bmatrix} 0-2 \\ 0-2 \\ 0-0 \\ 0-1 \end{bmatrix}$  5 オランダ

【第4試合】6月26日(SGM) 対 ウェールズ 12:30 晴れ ピッチ4  
 今大会ベスト8位以内を果たすには2点差以上で勝たねばならない大切な予選リーグ最終戦の試合であった。しかし、PCから29分先制点を上げられたがトーナメント進出のためにと必至で対応し46分新井のFGで同点に追いつく。しかし、最後は47分PSから決勝点を与え試合終了。これでグループ5位となり9位~11位決定戦に回る。気持ちを切り替え残り2試合全力で勝利を目指して進む。

日本 1  $\begin{bmatrix} 0-0 \\ 0-1 \\ 1-1 \\ 0-0 \end{bmatrix}$  2 ウェールズ

《予選リーグ成績表》

|        |  | 日本  | ウェールズ | イングランド | オランダ | ベルギー |    |
|--------|--|-----|-------|--------|------|------|----|
| 日本     |  |     | ×     | ×      | ×    | ×    | 5位 |
|        |  |     | 1-2   | 1-7    | 0-5  | 2-3  |    |
| ウェールズ  |  | ○   |       | ×      | ×    | ○    | 3位 |
|        |  | 2-1 |       | 1-2    | 0-5  | 1-0  |    |
| イングランド |  | ○   | ○     |        | ○    | ○    | 1位 |
|        |  | 7-1 | 2-1   |        | 2-1  | 7-0  |    |
| オランダ   |  | ○   | ○     | ×      |      | ○    | 2位 |
|        |  | 5-0 | 5-0   | 1-2    |      | 4-0  |    |
| ベルギー   |  | ○   | ×     | ×      | ×    |      | 4位 |
|        |  | 3-2 | 0-1   | 0-7    | 0-4  |      |    |

《 9位～11位決定戦 》

【第5試合】 6月28日 (SGM) 対アルゼンチン 10:45 晴 ピッチ1

SGM今大会初勝利を目指してスタート。開始早々から日本ペース試合は展開された。2分相手ミスによりPCを取得しシュートするが枠をとらえることが出来ず得点には至らない。1Qは再三相手陣内に攻め込むが決定力に欠き得点できない。前半0-0で後半3Qに入りようやくサークル内の混戦から37分周々木が押し込み先取点を上げる。後半に入っても日本ペースで試合を進むがなかなか追加点を上げることが出来ない。4Qに入り67分関谷が中央よりドリブルで持ち込みサークルトップよりリバースシュート、GKの下を抜けて得点、ようやく追加点を上げる。終了間際の69分森坂が右からドリブルで持ち込みクリーンシュート決定的な3点目を上げ3-0で終了。今大会初勝利を挙げ、9位・10位決定戦に進む。

|     |   |   |                          |   |   |               |
|-----|---|---|--------------------------|---|---|---------------|
| 日 本 | 3 | [ | 0-0<br>0-0<br>1-0<br>2-0 | ] | 0 | アルゼンチン (A組6位) |
|-----|---|---|--------------------------|---|---|---------------|

《 9位～10位決定戦 》

【第6試合】 6月29日 (SGM) 対イタリア 20:00 晴れ ピッチ3

今大会最終戦となったこの試合、勝って日本に帰りたい思いで臨んだ。開始早々から一進一退の攻防が続く。2Qの31分サークル内の混戦から先制点を与えてしまう。嫌な予感がしたが、3Qに入り流れを変えたい日本はDFに怪我をしている筒井をいれDFの安定を図った。これが功をそうし、日本ペースで試合が進むようになり40分PCから宮本の同点シュートで追いつく。しだいにイタリアの足が止まり日本の一方的な試合となり45分PCから関谷のシュートで逆点し、53分宮本のPCが決まり3-1と突き放し試合終了。今大会2勝目、9位で全試合終了した。

|     |   |   |                          |   |   |             |
|-----|---|---|--------------------------|---|---|-------------|
| 日 本 | 3 | [ | 0-0<br>0-1<br>2-0<br>1-0 | ] | 1 | イタリア (A組5位) |
|-----|---|---|--------------------------|---|---|-------------|

《SGM 総括》

JGMA会員中2018年WCバルセロナ大会SGM選手対象者は21名だが病気怪我、その他の事情で11名になり、必死の勧誘活動によりVGMのよき理解者4名と特例UAのGKに助けられ何とか16名で編成した苦難の出発でしたが、各選手が自覚と責任を全うされ平均年齢が高いチームながら、11か国中、目標の8位以内に届かなかったが2勝を挙げ過去最高9位をとった。しかも全得点10点、全失点18点得失点差8点という、偉業を成し遂げたことは、SGMの功績と感謝する。高齢者選手の層が非常に薄いので、今後の大会にもSGM及びVGMは代表選手を選考するのに、今回と同じような状態になることを危惧する。そのために少数でも戦えるような仕組み作りを早急に取り組まないといけない。

終わりに10得点選手を挙げ祝福し、全員で得点に寄与して頂いた全選手に感謝。

(宮本3PC・周々木2FG・森坂2FG・関谷2PC, FG・新井1FG)

《日本SGM総評&今後の課題》

選手不足による選手層の問題、基本的フォーメーションの確立、技術UPのための準備トレーニング活動。

SGM 主将 宮本 隆三